

経営会議で通る、 ショート動画内製化の稟議と投資対効果

制作会社のノウハウを、社員が再現できる運営の仕組みへ。



作り方ではなく、続け方まで決める。

1	内製化する目的		
2	社内に残す判断		
3	担当者と役割		
4	最初の検証		
5	改善を続ける基準		

読み終えたら、**誰が・何を・いつまでに・何を見て改善するか**を、自社の言葉で決めていきましょう。

動画が作れないのではなく、 運営が設計されていない。



制作の前に、**止まらない運営**を一緒に整えていきましょう。

内製化の目的を、一文にする。

期待と負担を数字で比べ、開始範囲と判断日を決める。

期待	負担
✓ 企画判断が社内に残る	✓ 担当者工数
✓ 改善速度を上げる	✓ 教育・確認・機材

→ 本数だけでなく、次の企画を社内で判断できることをゴールに置く。

比較できる材料を揃え、チームで前向きに判断しましょう。

全部を社内で抱えない。

社内に残す判断



顧客理解



企画判断



成果学習

外部で補う専門作業



専門撮影



高難度編集



繁忙期の量産

本数ではなく、**学習を自社に残す価値**と、**制作を継続する総コスト**で判断する。



判断と学習を社内に残しながら、無理なく続けられる形を選びましょう。

制作実務と育成実務を、同じ流れで教えられる。



実績



分業



標準



社内移管



200社以上



3,000本以上

広告

SNS

通販

営業

採用

実制作担当が、人員・目的・頻度に合わせて移管します。

現場で使える型を、**自社のチーム**へつないでいきましょう。

全員を万能にせず、責任の空白をなくす。



責任者

目的・予算・優先順位



企画

誰に何を伝えるか



出演

話し方・表現



撮影

画角・音・光



編集

尺・字幕・テンポ



分析

数字・仮説・改善



兼務しても、役割ごとの**責任者は一人。**

役割を明確にして、チームで安心して前へ進みましょう。

制作開始前の合意が、修正と停滞を減らす。

01 | 目的 何を变えたいか



どのような状態を目指すのか、制作の目的を明確にします。

02 | 対象 誰の判断を助けるか



どの層のどのような立場の人の判断を助けるのか、対象を明確にします。

03 | 尺・本数 どこまで作るか



1本あたりの尺や制作する本数、シリーズの範囲を決めます。

04 | 品質基準 何を合格とするか



表現・情報・トンマナなど、どの状態を合格とするのか基準を決めます。

05 | 承認者 誰が最終判断するか



どの役職・どの部署の誰が最終判断するのか、承認フローを明確にします。



企画



台本



撮影



編集



公開

最初の合意をそろえて、**迷いの少ない制作**を始めましょう。

企画は、視聴者の「判断」から逆算する。

1本につき、**問い**は一つ。**答え**も一つ。



誰に | どんな状況の人か

- 年齢・役職・業種 など
- 抱えている課題・悩み
- 情報収集のタイミング
- すでに知っていること・知らないこと



何を | 何を判断できるようにするか

- 知る・比較する・検討する など
- 判断に必要な情報は何か
- どの不安・疑問を解消するか
- 判断の基準となるポイントは何か



次へ | 視聴後に何をしてほしいか

- Webサイトを見る
- 資料をダウンロードする
- 問い合わせをする
- 無料相談に申し込む など



企画の
基本の考え方

対象



問い



答え



次の行動

伝えることを絞って、視聴者が次へ進みやすい企画にしましょう。

撮影と編集は、チェックリストで再現できる。

撮影前チェック

- ☐ 画角
- ☐ 明るさ
- ☐ 音量
- ☐ 背景
- ☐ 話す順番

編集前チェック

- ☐ 尺
- ☐ 字幕
- ☐ テンポ
- ☐ 強調
- ☐ 書き出し設定

☒ **感覚ではなく、合格条件を共有する。**

同じ基準を使って、誰でも安定して仕上げられるチームを目指しましょう。

道具は、使い続けられるかで選ぶ。

高機能より、**定着しやすさ**。

判断軸	確認すること
操作	担当者が迷わず使えるか
共有	素材と設定を引き継げるか
再現	同じ品質で繰り返せるか
更新	環境が変わっても続けられるか

現場に合う道具を選んで、**続けられる制作環境を整えましょう。**

内製と外部支援を、作業単位で分ける。

社内で持つ



企画判断



顧客理解



日常運用



成果の学習

外部で補う



専門撮影



高難度編集



立ち上げ支援



繁忙期の量産



頻度・難易度・学習価値で判断

自社に残す力を決めて、必要な支援を上手に組み合わせましょう。

再生数だけでなく、判断までの流れを見る。



表示



視聴



反応



行動



成果

①

事実

何が起きたか

②

仮説

なぜ起きたか

③

変更

次に何を変えるか

④

期限

いつ確認するか



数字は、次の改善を決めるために使う。

事実から小さく改善を重ねて、成果につながる流れを育てましょう。

90日で、判断できる状態をつくる。



匿名モデル。成果を保証するものではありません。

まずは90日で型をつくり、**自社に合う進め方を一緒に見つけましょう。**

経営会議では、5つを決める。

01

目的

何を変える投資か



02

範囲

どこから始めるか



03

体制

誰が責任を持つか



04

基準

何を見て判断するか



05

日付

いつ継続を決めるか



合意

実行

記録

改善

判断

決めることを明確にして、チームが動きやすい**90日**を始めましょう。

今日、最初の5つを決めましょう。

☐ 目的

☐ 対象

☐ 初期範囲

☐ 責任者

☐ 判断日

完璧な内製化ではなく、
学びながら続けられる仕組みへ。

→ 次の一步 | 90日の進め方を整理する

小さく始めて、チームらしい運営の形を一緒につくっていきましょう。